日中 おかやま
題字 故原田 親
No. 629
2011/2/15
日中友好新聞
発行所
日本中国友好協会
日中友好協会
岡山支部
〒703-8256
岡山市浜3-8-30-514
TEL(086)272-3010
郵便振替口座
01250-0-3835
日中友好協会
倉敷支部
〒712-8014
倉敷市連島中央1-8-4
(宮地方)
TEL・FAX(086)446-2711

宗景正写真展

「中国残留邦人のくらしは今」

多数の来場者を得て無事終了

「中国残留邦人のくらしは今」宗景正写真展（1月26日～28日、於 倉敷市役所1F展示ホール）は、多数の来場者を得て無事終えることが出来ました。2日半という短い日程でしたが、全国紙2紙（地方版）が掲載し、2社のケーブルTVがニュースとして流してくれました。

写真展3日目、伊東香織市長が写真展会場を訪れ、熱心に写真を見た後、居合わせた帰国者（写真の本人たち）を励まし、握手をしながら「日本語大丈夫？長生きしてください」と話しかけました。

最終日には、伊東香織倉敷市長が見に来られ、熱心に説明に耳を傾けられるとともに、居合わせた帰国者と握手し、元気で長生きをして下さい」と励まして頂きました。

この写真展は、昨年の五月、生活福祉課、総務課と懇談した時に持ち上がりました。

その内容については当紙（6月15日付）に書いています。市の平和事業の一つとして取り組みたいということで、市に後援の申請もし、その認可の下に準備してきました。

展示内容をどんなものにするのか、宗景さんたちの写真家にも何度かお会いし、話して行く中で出来る限りわかりやすく、コンパクトなものにしょうということになりました。結果、宗景コーナーを中心に、満州開拓団に関する歴史資料（青木康嘉氏提供）、日中友好と日本語教室の活動と三つのゾーンに区切って展示しました。

開催の宣伝については、市広報紙「ぐらしき」の地域情報欄への掲載、地方紙のイベント簡報欄、チラシを作成し、折り込みと市機関を通じ、公民館への配布、また市職労の職場新聞「あさかぜ」にも寄稿し、来場を訴えました。

アンケートは、46通が箱に入っていました。9割近い人が写真展をみて「よかつた」との回答を得ています。特に感想を書く欄はなかったのですが、中国残留邦人のことをもっと詳しく知りたい」とか「苦難の人生を歩んで来られた帰国者たちのプロフィールを読んで涙した」との声を聞きました。

追加の展示版10枚を他から運搬しなければならない、困難な点もありましたが、沢山の方々のお力を借りて準備出来ました。方々に感謝を申し上げたいです。このたびの写真展は、中国帰国者たちの地域社会への参加・交流の第一歩となったと確信しています。

今後、中国残留邦人のような悲劇を二度と繰り返さないためにも、このような啓発・啓蒙の活動を、出来れば継続して取り組んで行きたいものです。

（山縣）

仲間づくり推進コーナ

2月9日（水）に、「日中友好協会岡山支部の活動を知ってもらう」ことを目的としたパネル展（2月10日～16日、岡山県国際交流センター）の準備を、宇野支部長、河井、稲葉、貝吹、小林の理事が参加して行いました。

展示の準備中に「日中女性サロン」の活動を紹介したパネルに中国人女性が関心を示し、貝吹理事が対応しました。

今後の女性サロンに参加されそうです。仲間づくりにはまず「日中友好協会」を知ってもらうことが第一歩です。

なお、小林事務局長が、前号で紹介した教え子に新聞の購読を訴え了承してもらいました。

小林

左から貝吹、稲葉理事、中国人女性、河井理事、宇野支部長、黄さん

中国語講座受講生によるビデオと写真上映会

2月6日（日）午前10時から、高島公民館にて馬小菲老師の担当する講座の受講生によるビデオと写真の上映会が開催されました。

受講生17名、理事5名、馬小菲さんのご家族6名の合計28名参加で、大盛況でした。

まず最初に、馬小菲老師のプロモーションビデオ（近藤さん作成）が上映されました。昨年の“うらじゃ”に馬さんたちが参加されるというところから、近藤さんが密着レポートを開始され、夏の“モンゴル旅行”そして、馬さんの日本への留学の真相などなど、初めて知る事実に皆、大拍手でした。

立っている人が馬さんのお父さん、前列のコートを着た人がお母さん

ついで、“モンゴル旅行”のビデオ上映が行なわれ、私も参加者の一人でしたが、編集されたビデオをあらためて観て、感慨深いものがありました。今回は前半部分だけでしたので、また、次回が企画されるようです。その後は、講座受講生の皆さんが中国を旅行されて、撮影してきた写真を上映され、軽食を取りながら和やかに会が進められました。

この会には、馬小菲老師のご両親も参加されていました。今年の1月から日本の正月を経験するために、来岡されています。

真田

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhong.web.infoseek.co.jp
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp

第80回日中文化講座

「いまの中国をどう見るか—映画・漫画を通して—」

石子順氏　講演・㉝　最終回

文化大革命が終わった時に一番初めに中国へ入った外国映画はどこの国の映画かというと日本映画です。入った映画が「君よ憤怒の河を渡れ」なんです。これがあっというまに百万人以上の人が観て、高倉健と中野良子がすごい人気でね、今でも人気ですよ。タクシー乗るとね〝中野良子はどうしている〟て聞かれますからね。あの人も中国で学校を作ったりして、民間大使的な活躍をやっているらしいです。中国のテレビにはよく出ていますね、だから人気はありますね。

日中友好というのは、映画や新聞もありますし、色んなことでつながっていくのかなと思います。今日皆さんに見ていただいた漫画も、中国漫画のほんの一端です。中国の大きな書店に行くと、漫画コーナーがすごいです。そこにみんな座り込んで漫画を見てます。読書欲がすごいですね。

これからますます、皆さん方と一緒に日中友好のために色んなことをやっていきたいなと思っています。徐鵬飛さんが言っていましたけど、8月15日の漫画集を見てね、「日本の漫画家がこんな切ない、こんな豊かな強い思いをもって、8月15日を描いていることを知って大変感動した。そしてこれを出版することに手助けができて自分としても大変うれしい」と言ってました。

いつも学生たちに言っているんですよね、君達もラーメン食べるように中国映画観てちょうだいと。我々は月に一回ぐらい餃子食べてますよね。餃子食べるように中国映画観てくれるといいんですけどね。日中友好新聞見てくれるといいんですけどね。

終り

岡山県高校生社会問題研究連絡協議会　第38回定時制通信制ブロックの学習会

帰国者問題を講演

1月29日、岡山市立後楽館高校で開催された、岡山県高校生社会問題研究連絡協議会の第38回定時制通信制ブロックの学習会に講師として参加しました。

話の内容は、次の3点です。

一、私と高社研（旧高校部落研）との関わり
二、高校生社研（部落研）活動とは

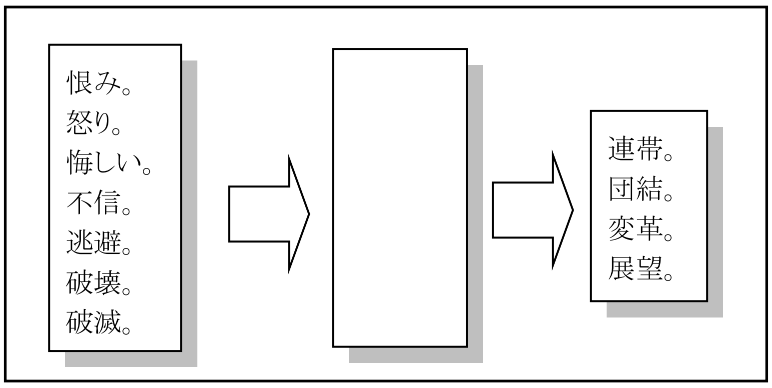
この二点については、私の教員生活のあゆみと関連させながら、1966年の第一回県集会から70年の定時制高校生の交流会が開かれるまでを話しました。

三、中国残留日本人孤児と日本国憲法

ここでは、中国残留日本人孤児の歴史と現状及び今後の課題を述べ、日中不再戦は憲法9条を生かす道であると強調しました。

さいごに、下記のような図を示し□に何が入るか考えてもらいました。生徒、先生とも熱心に聞いてくれました。

次に後楽館高校2年生（生徒会執行部の女性）の感想文を紹介します。　小林軍治



お互いに正しく理解し合うこと

高社研（部落研）の活動と中国帰国者問題についての講義、ありがとうございました。

高社研についてのお話では、わかりやすい年表とともに、今の高社研が成り立っていく様をより詳しく知ることができました。今まで何となくの気持ちで出席していた高社研の集まりでしたが、こうした会がたくさんの人の働きによって開けているのだと知り、感謝の思いと、この活動に対する誇りを持つようになりました。

中国帰国者問題では、私たちの知らない出来事や事実ばかりで、とても驚くとともに、興味深く聞かせていただきました。中国と日本は昔から交流があったとはいえ、たくさんの問題を抱えてここまで来たのだと改めて知ることができました。お互い相手のことを正しく理解し合うこと。国と国の問題だけではなく、人と人との間でもいえる事だと、深く胸に刻んで、人を大切にしていこうと思います。

深い内容を話し合う場を設けられず、聞くばかりになってしまいましたが、私は小林さんの講演を通して、人に伝えていくことと相手を思いやる愛が大切だと言うことを強く感じました。負の感情を、愛や思いやり、学習することによって、理解や協力に変えていくことを忘れず、これからの活動や生活を考えていこうと思います。

小林軍治さん、本当にありがとうございました。

BIG ISSUE〈大問題〉を買いました

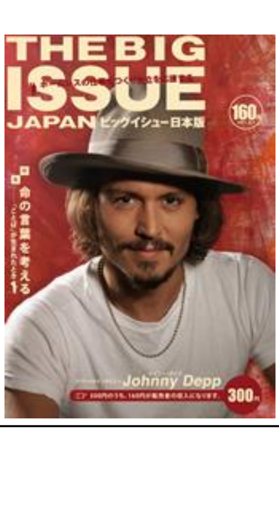
ホームレスをなくそうと、イギリスではじまった雑誌の日本版（300円、30ページ）を、やっと手に入れました。

2月5日、国民救援会の中央委員会に出席するため、お茶の水駅を出て、お茶の水橋の上で買いました。160号でした。

ホームレスの仕事をつくり自立を応援する雑誌ですが、岡山では買えません。NHKの深夜ラジオによると、08年のリーマンショックで雇い止めのため、ホームレスの若年化がおこっているそうです。

160号のビッグ・イシューには、特集　命の言葉を考える——『ことば』が生まれたとき——がのっています。ごく最近読んだばかりの『ことばと思考』今井むつみ慶応大学教授著、岩波新書という、いい本の著者の写真がのっていて、女性であることを知りました。

竹内和夫



第5回中国問題文化講演会
「尖閣諸島問題と日中関係」
・2011年2月19日（土）13時半から15時半
・倉敷市民会館2階会議室
・講師：松田準一氏
（日本共産党県副委員長・日中友好協会会員）
・主催：日中友好協会倉敷支部
（倉敷市連島中央 4-8-4 宮地義男方、
電話 086-446-2711

次回の新聞発送作業は**2月21日（月）午後1時半〜**民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。
稲葉
小林
竹内和
竹内袈
三垣